二つの大地震

題材のねらい　阪神・淡路大震災と東日本大震災から、それぞれの地震の特徴や被害について理解させる。

教科等との関連　理科　２　Ｂ生命・地球（４）土地のつくりと変化
土地やその中に含まれる物を観察し、土地のつくりや土地のでき方を調べ、土地のつくりと変化についての考えを持つことができるようにする。

展　開　例

	学習活動	指導上の留意点
導入	阪神・淡路大震災と東日本大震災の違いについて話し合う。	・阪神・淡路大震災と東日本大震災の概要について比較させる。 ・被害状況を確認する。
展開	活断層型とプレート境界型について考える。	・阪神・淡路大震災は活断層型地震、東日本大震災はプレート境界型地震であることを理解させる。
	活断層分布図やプレート境界型地震の歴史をみて、考える。	・県内にも多くの活断層があることに気付かせる。 ・プレート境界型地震が周期的に起きてきたことから、地震がいつ起こっても不思議でないことに気付かせる。
	地震の被害の起きやすい場所について考え、発表する。	・「土地の様子と災害」について確認し、同じ地震でも地盤の柔らかい場所では被害が大きく、埋め立て地などの液状化現象をおさえる。
まとめ	地震に対する「備え」について発表する。	・自由に考えを発表させ、「備え」の中で災害について理解していることが減災につながることをおさえる。

A

【出典】２００６年５月１９日阪神大震災確定報
http://www.fdma.go.jp/detail/672.html

B

【出典】警視庁緊急災害警備本部

http://www.npa.go.jp/archive/keibi/biki/higaijokyo.pdf